

## 3-1 自然科学研究所研究集会・シンポジウム実績報告

### ◆シンポジウム『動物の不思議を科学する』◆

1. 研究集会の名称：「動物の不思議を科学する－休眠・冬眠・乾眠・擬態・変態・尾の再生－」
2. 後援：世田谷区教育委員会
3. 開催期間：平成21年6月20日
4. 開催場所：日本大学文理学部百周年記念館国際会議場
5. 組織代表：飯野 熙彦（日本大学文理学部）
6. 参加者数：100名
7. 研究集会の趣旨：

科学の進歩に伴い生命科学の解析手法も非常に早い速度で進歩しており、いままで未解明であった興味ある動物達の不思議な生命現象を最近では分子レベルで解き明かされつつある。そこで、本シンポジウムは、動物の不思議な生命現象の解明に取り組んでいる研究者を招いて、学部生・大学院生・関連する学内外の教員や一般の人々などを対象に、その最新の知見の紹介と解説を行い、多様な生物の興味ある独特な現象の物質基盤や生命原理を理解し自然科学的造詣を深めてもらう事を趣旨とし実施した。また、生物を研究材料に用いている方や生命科学に関連する職に就いている方には、直接役立つ知識と研究のヒントを提供する事などにも配慮してシンポジウムを行った。

### 8. プログラム

9:45-10:00	開会の辞	自然科学研究所長 福田拓生
10:00-11:00		座長 木村武俊（北里大・医療衛生）
	「トカゲの尻尾はなぜ再生できるのか」	飯野熙彦（総合文化）
11:00-12:00		座長 外川 徹（日大・文理）
	「華麗なる変身〈変態〉の分子メカニズムを探る－クチクラタンパク質遺伝子の解析から－」	茶園 茂（物理生命）
12:00-13:00	－昼食－	
13:00-14:00		座長 藤原晴彦（東大院・新領域）
	「昆虫の擬態紋様形成のしくみを探る」	菅原正雄（化学）
14:00-15:00		座長 高松信彦（北里大・理）
	「哺乳動物の冬眠における遺伝子の発現調節機構の解析」	宮田昇平（化学）
15:00-15:30	－休憩－	
15:30-16:30		座長 黄川田隆洋（農業生物資源研・昆虫科学）
	「ネムリユスリカの極限的な乾燥耐性の仕組みをさぐる」	斉藤 稔（物理生命）
16:30-17:30		座長 柳沼利信（名古屋大院・生命農）
	「形質と環境－カイコ胚休眠の観点から－」	澤田博司（総合文化）